

# 2019・2020年度の予備力・調整力 及び潮流抑制のためのマージン (年間計画)

2019年3月1日

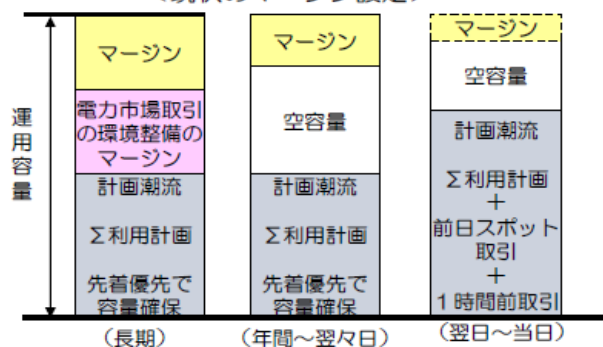
- ◆ 実需給断面におけるマーシンの必要な場合を除き、原則としてマーシンの値をゼロとする。
- ◆ 実需給断面において、マーシンを設定する蓋然性があるものの、計画段階では値を確定することが困難な連系線については、実需給断面において設定する蓋然性のある値の範囲で設定する。なお、系統情報サービス上は蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。

主な業務規程・送配電等業務指針変更点：マーシンの設定断面について（変更）

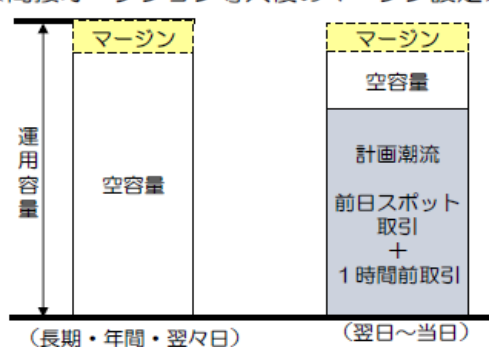
17

- 現行ルールでは、「先着優先」で長期断面から利用計画により容量登録されるため、長期～実需給断面においてマーシンを設定している。
- 連系線利用ルールが「間接オークション」に変更され前日スポット取引以降に容量登録されるため、翌々日断面において実需給断面を考慮したマーシンの設定ができればよい。
- 他方、供給計画を基にした需給バランス評価など予見性の観点から、長期・年間断面においてもマーシンを設定しておくことが必要である。
- 上記より、マーシンの設定断面は「長期・年間・翌々日」とし、現行ルールで実施していたマーシンの減少は不要なため削除する。【規程第128条、第129条】（変更）

＜現状のマーシンの設定＞



＜間接オークション導入後のマーシンの設定＞



間接オークション導入後



※ 年間・月間・翌々日の断面で実需給断面に向けマーシンを減少  
 ※ 実需給断面において必要な場合のみマーシンを設定

※ 実需給断面において必要な場合のみマーシンを設定

業務規程・送配電等業務指針（変更）の検討について  
 出典：広域機関HP 策定・変更に関するお知らせ 2017年度

# 1. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2019年度）平日

(単位：MW)

連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	夜間・連系線有線時等
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート5,6参照												
	東北⇒北海道													
東北東京間 連系線	東北⇒東京	12~392※1	12~392※1	12~392※1	12~342※1	22~352※1	22~352※1	22~472※1	22~402※1	22~402※1	22~402※1	22~402※1	22~402※1	10/31は22~402
	東京⇒東北	12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22	
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	4/11,12,15~ 19,22~26,7/1~ 5,8~12,16~18は 0~500, 5/19,6/22,23は0, 夜間は0												
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸													
	北陸⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中部関西間 連系線	中部⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	関西⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西中国間 連系線	関西⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~700※3	0~700※3	0~700※3	4/8~12,15~19, 22~26,5/7~10, 13~17,20~24,27, 10/30,31,2/18,19, 3/18,19は0, 12/26,27は0~ 700
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(注) ・想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

・範囲を記載しているマージンの値に関する補足は以下の通り。なお、系統情報サービス上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。

※1: 北海道風力実証分12MW（4~7月）,22MW（8~3月）に、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~380MW（4~6月,11~3月）,0~330MW（7~9月）,0~450MW（10月）を加えたもの。

※2: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~590MW（4,7~3月）,0~500MW（5,6月）

※3: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~930MW（4~12月）,0~700MW（1月~3月）

# 1. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2019年度）休日

(単位：MW)

夜間・連系線停電時

連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート5,6参照												
	東北⇒北海道													
東北東京間 連系線	東北⇒東京	12~392※1	12~392※1	12~392※1	12~342※1	22~352※1	22~352※1	22~472※1	22~402※1	22~402※1	22~402※1	22~402※1	22~402※1	
	東京⇒東北	12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22	
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	北陸⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中部関西間 連系線	中部⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	関西⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西中国間 連系線	関西⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~700※2	0~700※2	0~700※2	4/6,7,13,14,20,21, 4/27~5/6,5/11, 12,18,19,25,26は 0,12/28~31は0 ~700
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(注) ・想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。  
 ・範囲を記載しているマージンの値に関する補足は以下の通り。なお、系統情報サービス上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。  
 ※1: 北海道風力実証分12MW（4~7月）,22MW（8~3月）に、実需給断面において設定する蓋然性のある値0~380MW（4~6月,11~3月）,0~330MW（7~9月）,0~450MW（10月）を加えたもの。  
 ※2: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~930MW（4~12月）,0~700MW（1月~3月）

# 1. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2019年度）〔北本連系設備〕 5

(単位：MW)

連系線	方向	4月				5月				6月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	252	262	292	292	292	312	322	322	272	312	312	312
	東北⇒北海道	522	522	542	542	542	552	552	552	532	552	552	552
	方向	7月				8月				9月			
	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	
	北海道⇒東北	252	312	292	302	262	322	302	322	272	332	312	322
	東北⇒北海道	442	472	462	462	452	482	472	482	452	482	472	482
	方向	10月				11月				12月			
	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	
	北海道⇒東北	262	312	312	312	232	262	272	262	182	202	222	202
	東北⇒北海道	452	472	472	472	432	452	452	452	512	522	532	522
	方向	1月				2月				3月			
	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	
	北海道⇒東北	152	152	232	202	172	152	222	172	232	232	292	262
	東北⇒北海道	492	502	542	522	502	502	532	502	532	542	562	552

(注)・表中の略記については、「平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯」を意味する。

・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

<北本作業時等は次頁>

# 1. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2019年度）〔北本連系設備〕 6

## 【北本作業時等】

（単位：MW）

連系線	方向	4月（運用容量600MW時）				4月（運用容量300MW時）				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(4月運用容量600MW) 平P・N 8~9,10~12日 休P・N 7日	(4月運用容量300MW) 平P・N 1~3日
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	12	12	12	12	12	12	—	—		
	東北⇒北海道	522	522	542	542	300	300	—	—		
	方向	5月（運用容量300MW時）				6月（運用容量600MW時）				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(5月運用容量300MW) 平P・N 23~24,27日 休P・N 25,26日	(6月運用容量600MW) 平P 4~7日 平N 4~7,10日 休P・N 8~9日
	北海道⇒東北	12	12	22	22	12	12	12	12		
	東北⇒北海道	300	300	300	300	532	552	552	552		
	方向	6月（運用容量300MW時）				6月（苫東厚真4G中間点検時）				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(6月運用容量300MW) 平P 3,10日 平N 3日	(6月苫東厚真4G中間点検) 平P・N 27,28日 休P・N 29,30日
	北海道⇒東北	12	12	—	—	272	312	312	312		
	東北⇒北海道	300	300	—	—	452	472	472	472		
	方向	7月（運用容量600MW時）				8月（運用容量600MW時）				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(7月運用容量600MW) 平P・N 1~5,8~12,16~19,22~ 26,29~31日 休P・N 6,7,13~15,20,21,27,28日	(8月運用容量600MW) 平P・N 30日 休P・N 31日
	北海道⇒東北	12	12	12	12	22	22	22	22		
	東北⇒北海道	442	472	462	462	452	482	472	482		
	方向	8月（運用容量300MW時）				9月（運用容量600MW時）				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(8月運用容量300MW) 平P 30日	(9月運用容量600MW) 平P・N 2~6,9~13,17~20,24~ 27日 休P・N 1,7,8,14~16,21~23,28日
	北海道⇒東北	22	—	—	—	22	32	22	22		
	東北⇒北海道	300	—	—	—	452	482	472	482		
	方向	9月（運用容量300MW時）				10月（運用容量600MW時）				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(9月運用容量300MW) 休P 28日	(10月運用容量600MW) 平P 3,4,7~10日 休P 5,6日
	北海道⇒東北	—	—	22	—	262	—	312	—		
	東北⇒北海道	—	—	300	—	452	—	472	—		
	方向	11月（運用容量800MW時）				11月（苫東厚真4G中間点検試験運転時）				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(11月運用容量800MW) 平P 8日	(11月苫東厚真4G中間点検試験運転) 平P・N 25~29日 休P・N 30日
	北海道⇒東北	132	—	—	—	232	262	272	262		
	東北⇒北海道	432	—	—	—	532	552	552	552		
	方向	1月（運用容量600MW時）				2月（運用容量600MW時）				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(1月運用容量600MW) 平P・N 22~24,27~31日 休P・N 25,26日	(2月運用容量600MW) 平P・N 3~7,10,12~14,17~21, 25~28日 休P・N 1,2,8,9,11,15,16,22~24, 29日
北海道⇒東北	22	22	22	22	22	22	22	22			
東北⇒北海道	492	502	542	522	502	502	532	502			
方向	3月（運用容量600MW時）				3月（運用容量300MW時）				備考		
	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(3月運用容量600MW) 平P・N 2~6,9~13,16~19,23~ 27,30,31日 休P・N 1,7,8,14,15,20~22,28,29 日	(3月運用容量300MW) 平P・N 31日	
北海道⇒東北	22	22	22	22	22	22	—	—			
東北⇒北海道	532	542	562	552	300	300	—	—			

(注)・表中の略記については、「平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯」を意味する。

・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

## 2. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2020年度）平日

(単位：MW)

連系統	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	夜間・連系統情報等
北海道本州間 連系統設備	北海道⇒東北	シート9,10参照												
	東北⇒北海道	シート9,10参照												
東北東京間 連系統線	東北⇒東京	22~472※1	22~472※1	22~402※1	22~352※1	27~357※1	27~357※1	28~408※1	30~410※1	30~410※1	30~410※1	31~411※1	40~420※1	5/15,18~22, 25~29は22~402
	東京⇒東北	22	22	22	22	27	27	28	30	30	30	31	40	
東京中部間 連系統設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	
中部北陸間 連系統設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	0~590※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	0~590※2	夜間は0
北陸関西間 連系統線	関西⇒北陸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	北陸⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中部関西間 連系統線	中部⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	関西⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西中国間 連系統線	関西⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西四国間 連系統設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系統線	中国⇒四国	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	0~930※3	4/6~10,13,14, 5/7,8,11~15,18~ 21,22,25~29,6/1 ~5,10/14,15は0, 4/1は0~700
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系統線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(注) ・想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

・範囲を記載しているマージンの値に関する補足は以下の通り。なお、系統情報サービス上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。

※1: 北海道風力実証分22MW（4~7月）,27MW（8,9月）,28MW（10月）,30MW（11~1月）,31MW（2月）,40MW（3月）に、  
実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW（4,5月）,0~380MW（6月,10~3月）,0~330MW（7~9月）を加えたもの。

※2: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~590MW

※3: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~930MW



## 2. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2020年度）休日

(単位：MW)

夜間・連系線作業時等

連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート9,10参照												
	東北⇒北海道	シート9,10参照												
東北東京間 連系線	東北⇒東京	22~472※1	22~472※1	22~402※1	22~352※1	27~357※1	27~357※1	28~408※1	30~410※1	30~410※1	30~410※1	31~411※1	40~420※1	5/16,17,23,24,30,31,は22~402
	東京⇒東北	22	22	22	22	27	27	28	30	30	30	31	40	
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	
	中部⇒東京	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	北陸⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中部関西間 連系線	中部⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	関西⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西中国間 連系線	関西⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	0~930※2	4/4,5,11,12,5/9,10,16,17,23,24,30,31,6は0
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(注) ・想定需要の見直し等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

・範囲を記載しているマージンの値に関する補足は以下の通り。なお、系統情報サービス上は、蓋然性のある値の範囲の最小値を表示し、注記を付す等して対応する。

※1: 北海道風力実証分22MW (4~7月), 27MW (8,9月), 28MW (10月), 30MW (11~1月), 31MW (2月), 40MW (3月) に、  
実需給断面において設定する蓋然性のある値0~450MW (4,5月), 0~380MW (6月, 10~3月), 0~330MW (7~9月) を加えたもの。

※2: 実需給断面において設定する蓋然性のある値0~930MW



## 2. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2020年度）〔北本連系設備〕 9

(単位：MW)

連系線	方向	4月				5月				6月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	262	272	302	302	302	322	332	332	282	322	322	322
	東北⇒北海道	552	552	572	572	572	582	582	582	562	582	582	582
	方向	7月				8月				9月			
	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	
	北海道⇒東北	262	322	302	312	267	327	307	327	277	337	317	327
	東北⇒北海道	552	582	572	572	557	587	577	587	557	587	577	587
	方向	10月				11月				12月			
	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	
	北海道⇒東北	268	318	318	318	240	270	280	270	190	210	230	210
	東北⇒北海道	558	578	578	578	540	560	560	560	520	530	540	530
	方向	1月				2月				3月			
	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	
	北海道⇒東北	160	160	240	210	181	161	231	181	250	250	310	280
	東北⇒北海道	500	510	550	530	511	511	541	511	550	560	580	570

(注)・表中の略記については、「平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯」を意味する。

・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

# 2. 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2020年度）〔北本連系設備〕10

## 【北本作業時等】

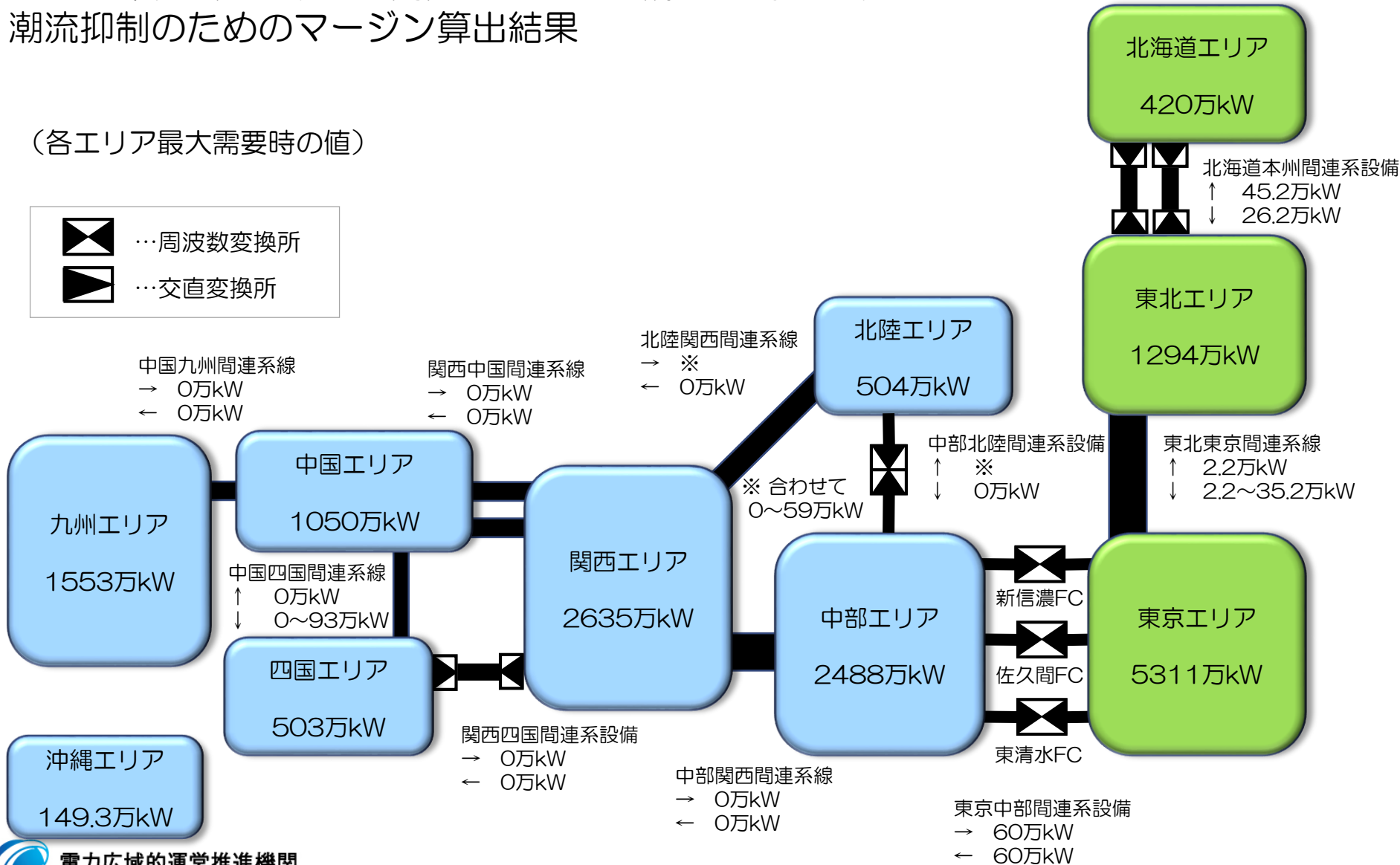
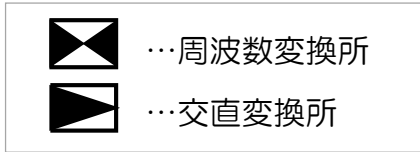
(単位：MW)

連系線	方向	4月（運用容量600MW時）				4月（運用容量300MW時）				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(4月運用容量600MW) 平P・N 6~10,13~17,20~24,27,28日 休P・N 5,11,12,18,19,25,26,29,30日	(4月運用容量300MW) 平P・N 1~3日 休P・N 4日
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	22	22	22	22	22	22	22	22		
	東北⇒北海道	552	552	572	572	300	300	300	300		
	方向	5月（運用容量600MW時）				6月（運用容量600MW時）				備考	
	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N			
	北海道⇒東北	22	22	32	32	22	22	22	22	(5月運用容量600MW) 平P・N 7,8,11~15,18~22,25~29日 休P・N 1~6,9,10,16,17,23,24,30,31日	(6月運用容量600MW) 平P・N 1~5,8~12,15~19日 休P・N 6,7,13,14,20,21日
	東北⇒北海道	572	582	582	582	562	582	582	582		
	方向	6月（運用容量300MW時）				8月（運用容量600MW(北本作業)時)				備考	
	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N			
	北海道⇒東北	22	22	22	22	27	27	27	27	(6月運用容量300MW) 平P・N 22~26,29,30日 休P・N 27,28日	(8月運用容量600MW(北本作業)) 平P・N 21日 休P 22日 休N 22,23日 ※北本300MW, 新北本300MW
	東北⇒北海道	300	300	300	300	557	587	577	587		
	方向	8月（運用容量600MW(新北本作業)時)				8月（運用容量300MW時)				備考	
	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N			
	北海道⇒東北	267	327	307	327	27	27	27	—	(8月運用容量600MW(新北本作業)) 平P・N 26~28,31日 休P・N 29,30日 ※北本600MW, 新北本0MW	(8月運用容量300MW) 平P・N 20日 休P 23日
	東北⇒北海道	557	587	577	587	300	300	300	—		
	方向	9月（運用容量600MW(新北本作業)時)				9月（運用容量600MW(北本作業)時)				備考	
平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N				
北海道⇒東北	277	337	317	327	27	37	27	27	(9月運用容量600MW(新北本作業)) 平P・N 1~4,7,8日 休P・N 5,6日 ※北本600MW, 新北本0MW	(9月運用容量600MW(北本作業)) 平P・N 11,14,15日 休P・N 12,13日 ※北本300MW, 新北本300MW	
東北⇒北海道	557	587	577	587	557	587	577	587			

(注)・表中の略記については、「平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯」を意味する。  
 ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の連開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

## 2019年度（8月平日昼間）における予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン算出結果

（各エリア最大需要時の値）



・各エリア内数値は、2019年度（8月）送電端最大3日平均電力予想（H3）を表す。

以下参考

(単位: MW)

方向	区分	4月				5月				6月				7月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	240	250	280	280	280	300	310	310	260	300	300	300	240	300	280	290
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B0	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
		252	262	292	292	292	312	322	322	272	312	312	312	252	312	292	302
東北⇒北海道	B1	510	510	530	530	530	540	540	540	520	540	540	540	430	460	450	450
	C1	430	430	450	450	450	460	460	460	440	460	460	460	430	460	450	450
	B0	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
		522	522	542	542	542	552	552	552	532	552	552	552	442	472	462	462
方向	区分	8月				9月				10月				11月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	240	300	280	300	250	310	290	300	240	290	290	290	210	240	250	240
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B0	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
		262	322	302	322	272	332	312	322	262	312	312	312	232	262	272	262
東北⇒北海道	B1	430	460	450	460	430	460	450	460	430	450	450	450	410	430	430	430
	C1	430	460	450	460	430	460	450	460	430	450	450	450	410	430	430	430
	B0	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
		452	482	472	482	452	482	472	482	452	472	472	472	432	452	452	452
方向	区分	12月				1月				2月				3月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	160	180	200	180	130	130	210	180	150	130	200	150	210	210	270	240
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B0	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
		182	202	222	202	152	152	232	202	172	152	222	172	232	232	292	262
東北⇒北海道	B1	490	500	510	500	470	480	520	500	480	480	510	480	510	520	540	530
	C1	390	400	410	400	370	380	420	400	380	380	410	380	410	420	440	430
	B0	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
		512	522	532	522	492	502	542	522	502	502	532	502	532	542	562	552

- (説明) ・表中の略記については、「平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯」を意味する。  
 ・区分についてはシート27、28を参照。  
 ・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値。東北⇒北海道向きについては区分B1とC1のうち大きい値に、区分B0の値を加えた値をマージンの値とする。  
 ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。  
 ・平成30年北海道胆振東部地震に伴う大規模停電に関する検証委員会最終報告(2018.12.19)により、運用上の中長期対策として、北海道本州間連系設備のマージン再評価の結果、東北⇒北海道向きのマージンについては、北海道本州間連系設備増強後の考え方からの変更はない。

【平日・休日】

(単位: MW)

方向	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東北⇒東京	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C2	0~380	0~380	0~380	0~330	0~330	0~330	0~450	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380
	BO	12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22
		12~392	12~392	12~392	12~342	22~352	22~352	22~472	22~402	22~402	22~402	22~402	22~402
東京⇒東北	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	BO	12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22
		12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22

- (説明)
- 区分についてはシート27、28を参照。
  - 東北⇒東京向きについては区分A1とC2のうち大きい値にBOを加えた値とする。東京⇒東北向きについては区分A1にBOを加えた値とする。
  - 北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

(単位: MW)

方向	区分	4月				5月				6月				7月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	240	250	280	280	280	300	310	310	260	300	300	300	240	300	280	290
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B0	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
		262	272	302	302	302	322	332	332	282	322	322	322	262	322	302	312
東北⇒北海道	B1	530	530	550	550	550	560	560	560	540	560	560	560	530	560	550	550
	C1	430	430	450	450	450	460	460	460	440	460	460	460	430	460	450	450
	B0	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
		552	552	572	572	572	582	582	582	562	582	582	582	552	582	572	572
方向	区分	8月				9月				10月				11月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	240	300	280	300	250	310	290	300	240	290	290	290	210	240	250	240
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	B0	27	27	27	27	27	27	27	27	28	28	28	28	30	30	30	30
		267	327	307	327	277	337	317	327	268	318	318	318	240	270	280	270
東北⇒北海道	B1	530	560	550	560	530	560	550	560	530	550	550	550	510	530	530	530
	C1	430	460	450	460	430	460	450	460	430	450	450	450	410	430	430	430
	B0	27	27	27	27	27	27	27	27	28	28	28	28	30	30	30	30
		557	587	577	587	557	587	577	587	558	578	578	578	540	560	560	560
方向	区分	12月				1月				2月				3月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	160	180	200	180	130	130	210	180	150	130	200	150	210	210	270	240
	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	B0	30	30	30	30	30	30	30	30	31	31	31	31	40	40	40	40
		190	210	230	210	160	160	240	210	181	161	231	181	250	250	310	280
東北⇒北海道	B1	490	500	510	500	470	480	520	500	480	480	510	480	510	520	540	530
	C1	390	400	410	400	370	380	420	400	380	380	410	380	410	420	440	430
	B0	30	30	30	30	30	30	30	30	31	31	31	31	40	40	40	40
		520	530	540	530	500	510	550	530	511	511	541	511	550	560	580	570

- (説明) ・表中の略記については、「平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯」を意味する。
- ・区分についてはシート27、28を参照。
  - ・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値、東北⇒北海道向きについては区分B1とC1のうち大きい値に、区分B0の値を加えた値をマージンの値とする。
  - ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。
  - ・平成30年北海道胆振東部地震に伴う大規模停電に関する検証委員会最終報告(2018.12.19)により、運用上の中長期対策として、北海道本州間連系設備のマージン再評価の結果、東北⇒北海道向きのマージンについては、北海道本州間連系設備増強後の考え方からの変更はない。



## 【平日・休日】

(単位: MW)

方向	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東北⇒東京	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C2	0~450	0~450	0~380	0~330	0~330	0~330	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380
	B0	22	22	22	22	27	27	28	30	30	30	31	40
		22~472	22~472	22~402	22~352	27~357	27~357	28~408	30~410	30~410	30~410	31~411	40~420
東京⇒東北	A1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B0	22	22	22	22	27	27	28	30	30	30	31	40
		22	22	22	22	27	27	28	30	30	30	31	40

- (説明)
- 区分についてはシート27、28を参照。
  - 東北⇒東京向きについては区分A1とC2のうち大きい値にB0を加えた値とする。東京⇒東北向きについては区分A1にB0を加えた値とする。
  - 北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

# (参考) 実需給断面においてエリアの予備力不足等によりマージンが必要となった場合に設定する可能性のある最大値 (2019年度) 平日 17

(単位: MW)

連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	夜間等
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	シート18,19参照												
	東北⇒北海道	シート18,19参照												
東北東京間 連系線	東北⇒東京	572	512	622	812	822	702	532	622	682	722	722	672	
	東京⇒東北	シート18参照												
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	600	600	640	770	770	680	600	600	690	710	710	650	
	中部⇒東京	600	600	620	800	800	680	600	610	660	710	710	650	
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中部⇒北陸	700	500	500	700	700	700	700	700	700	700	700	700	夜間は0
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	60	50	60	70	70	60	50	60	70	70	70	60	
	北陸⇒関西	250	260	300	370	370	320	270	270	330	330	330	300	
中部関西間 連系線	中部⇒関西	280	290	310	380	380	330	300	300	340	350	350	330	
	関西⇒中部	230	230	260	320	320	280	240	260	300	310	310	280	
関西中国間 連系線	関西⇒中国	250	250	290	360	360	320	260	270	320	330	330	300	
	中国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	四国⇒関西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	930	930	930	930	930	930	930	930	930	700	700	700	
	四国⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	九州⇒中国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

# (参考) 実需給断面においてエリアの予備力不足等によりマージンが必要となった場合に設定する可能性のある最大値(2019年度) 平日 18

## 【北本連系設備】

(単位: MW)

連系線	方向	4月		5月		6月	
		平P	平N	平P	平N	平P	平N
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	252	262	292	312	512	512
	東北⇒北海道	—*	—*	—*	—*	—*	—*
	方向	7月		8月		9月	
		平P	平N	平P	平N	平P	平N
	北海道⇒東北	512	512	522	522	522	522
	東北⇒北海道	—*	—*	—*	—*	—*	—*
	方向	10月		11月		12月	
		平P	平N	平P	平N	平P	平N
	北海道⇒東北	262	312	232	262	192	202
	東北⇒北海道	—*	—*	—*	—*	—*	—*
	方向	1月		2月		3月	
		平P	平N	平P	平N	平P	平N
北海道⇒東北	202	202	202	202	232	232	
東北⇒北海道	—*	—*	—*	—*	—*	—*	

(注)・表中の略記については、「平:平日、P:昼間帯、N:夜間帯」を意味する。

・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

※予備力によるマージン値に変化なし

## 【東北東京間連系線(東京⇒東北)】

(単位: MW)

平休日	昼夜	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平日	昼間	322	302	322	370	330	362	332	370	402	422	422	390
	夜間	280	240	260*1	280	240	280	270	290	360	390	430	360

※1: 6/13~14,17~19は272 (いずれも送電線等作業による)

(注)想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

(参考) 実需給断面においてエリアの予備力不足等によりマージンが必要となった場合に設定する可能性のある最大値の内訳 (2019年度) [北本連系設備]

(単位: MW)

方向	区分	4月		5月		6月		7月	
		平P	平N	平P	平N	平P	平N	平P	平N
北海道⇒東北	C1	240	250	280	300	260	300	240	300
	A1	140	140	130	130	500	500	500	500
	B0	12	12	12	12	12	12	12	12
		252	262	292	312	512	512	512	512
方向	区分	8月		9月		10月		11月	
		平P	平N	平P	平N	平P	平N	平P	平N
北海道⇒東北	C1	240	300	250	310	240	290	210	240
	A1	500	500	500	500	130	130	150	150
	B0	22	22	22	22	22	22	22	22
		522	522	522	522	262	312	232	262
方向	区分	12月		1月		2月		3月	
		平P	平N	平P	平N	平P	平N	平P	平N
北海道⇒東北	C1	160	180	130	130	150	130	210	210
	A1	170	170	180	180	180	180	170	170
	B0	22	22	22	22	22	22	22	22
		192	202	202	202	202	202	232	232

(説明) ・表中の略記については、「平: 平日、P: 昼間帯、N: 夜間帯」を意味する。  
 ・区分についてはシート27、28を参照。  
 ・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値に、区分B0の値を加えた値をマージンの値とする。  
 ・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

【平日】

(単位: MW)

方向	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東北⇒東京	A1	560	500	610	800	800	680	510	600	660	700	700	650
	C2	0~380	0~380	0~380	0~330	0~330	0~330	0~450	0~380	0~380	0~380	0~380	0~380
	B0	12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22
		572	512	622	812	822	702	532	622	682	722	722	672
東京⇒東北	A1	310	290	310	370	380	340	310	350	380	400	400	370
	B0	12	12	12	12	22	22	22	22	22	22	22	22
		322	302	322	382	402	362	332	372	402	422	422	392
【参考】 運用容量	昼間	350	320	350	370	330	370	350	370	440	460	480	390
	夜間	280	240	260	280	240	280	270	290	360	390	430	360

- (説明)
- 区分についてはシート27、28を参照。
  - 東北⇒東京向きについては区分A1とC2のうち大きい値にB0を加えた値とする。東京⇒東北向きについては区分A1にB0を加えた値とする。
  - 緑色箇所は、昼間や夜間に運用容量を超えたマージンとなる場合があることから、昼間・夜間帯別に運用容量を上限にマージンを設定する(マージンが赤字の値となる)。想定需要の見直しや系統構成の見直し等により運用容量が変更となる場合は、マージンも変更する。
  - 想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

(参考) 実需給断面においてエリアの予備力不足等によりマージンが必要となった場合に設定する可能性のある最大値(2020年度) 平日

(単位: MW)

連系線	方向	2020年	備考*
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	527	8月平日昼間3%
	東北⇒北海道	—	予備力によるマージン値に変化なし
東北東京間 連系線	東北⇒東京	817	8月平日昼間3%
	東京⇒東北	430	1月平日昼間3%
東京中部間 連系設備	東京⇒中部	770	8月平日昼間3%
	中部⇒東京	800	8月平日昼間3%
中部北陸間 連系設備	北陸⇒中部	0	
	中部⇒北陸	700	最大機
北陸関西間 連系線	関西⇒北陸	70	8月平日昼間3%
	北陸⇒関西	70	8月平日昼間3%
中部関西間 連系線	中部⇒関西	360	8月平日昼間3%
	関西⇒中部	380	8月平日昼間3%
関西中国間 連系線	関西⇒中国	320	8月平日昼間3%
	中国⇒関西	360	8月平日昼間3%
関西四国間 連系設備	関西⇒四国	0	
	四国⇒関西	0	
中国四国間 連系線	中国⇒四国	930	最大機
	四国⇒中国	0	
中国九州間 連系線	中国⇒九州	0	
	九州⇒中国	0	

※各連系線・連系設備におけるマージンの設定値の考え方の詳細は、別紙3「実需給断面におけるマージンの設定の考え方及び確保理由について」を参照

【北本連系設備】

(単位: MW)

方向	区分	2020年8月
北海道⇒東北	C1	240
	A1	500
	B0	27
		527

- (説明)
- 区分についてはシート27、28を参照。
  - 北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値、東北⇒北海道向きについては区分B1とC1のうち大きい値に、区分B0の値を加えた値をマージンの値とする。
  - 想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

【東北東京間連系線】

(単位: MW)

方向	区分	2020年8月
東北⇒東京	A1	790
	C2	0~330
	B0	27
		817

- (説明)
- 区分についてはシート27、28を参照。
  - 東北⇒東京向きについては区分A1とC2のうち大きい値にB0を加えた値とする。東京⇒東北向きについては区分A1にB0を加えた値とする。
  - 想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

(単位: MW)

方向	区分	2020年1月
東京⇒東北	A1	400
	B0	30
		430
【参考】 運用容量	昼間	2360
	夜間	2360



# (参考) 間接オークション導入後 (2018年10月1日~2019年2月10日) の マージン設定実績

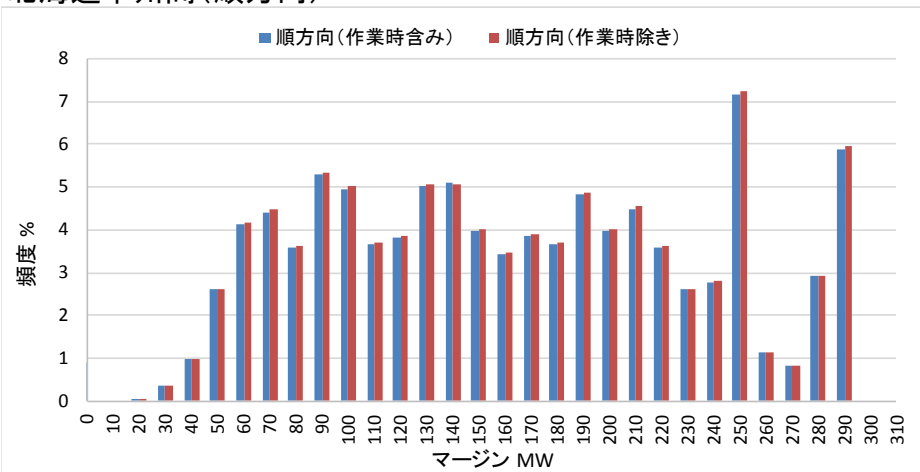
- 2018年10月1日~2019年2月10日 ( 48コマ (30分コマ) × 133日 )
- 当日断面における最終値

連系線名	方向	作業	平均 (MW)	最小 (MW)	最大 (MW)	最頻値(MW) 【最もデータ数が多い値】 括弧内は最頻値発生率	最頻度数 (個)	母数 (個)
北海道本州間 連系設備※	順方向	作業時含み	162	0	290	250 (7.2%)	458	6,384
		作業時除き	164	20	290	250 (7.2%)	458	6,322
	逆方向	作業時含み	473	300	540	460 (10.8%)	691	6,384
		作業時除き	475	410	540	460 (10.9%)	691	6,327
東北東京間 連系線※	順方向	作業時含み	29	0	460	12 (47.7%)	3,048	6,384
		作業時除き	29	0	460	12 (47.7%)	3,048	6,384
	逆方向	作業時含み	9	0	12	12 (43.3%)	2,766	6,384
		作業時除き	9	0	12	12 (43.3%)	2,766	6,384
東京中部間 連系線	順方向	作業時含み	600	600	600	600 (100.0%)	6,384	6,384
		作業時除き	600	600	600	600 (100.0%)	3,512	3,512
	逆方向	作業時含み	600	600	600	600 (100.0%)	6,384	6,384
		作業時除き	600	600	600	600 (100.0%)	3,512	3,512
中部関西間連系線	順方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	6,384	6,384
	逆方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	6,384	6,384
北陸フェンス	順方向	作業時含み	108	0	530	0 (64.9%)	4,144	6,384
		作業時除き	109	0	530	0 (64.8%)	4,132	6,372
北陸関西間連系線	順方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	6,384	6,384
関西中国間連系線	順方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	6,384	6,384
	逆方向	作業時含み	0	0	0	0 (100.0%)	6,384	6,384
中国四国間連系線	順方向	作業時含み	120	0	670	0 (54.0%)	3,448	6,384
		作業時除き	121	0	670	0 (53.8%)	3,419	6,355

※ 北海道本州間、東北東京間のマージンは北海道風力実証分を含む。(東北東京間の逆方向は風力実証マージンのみ)

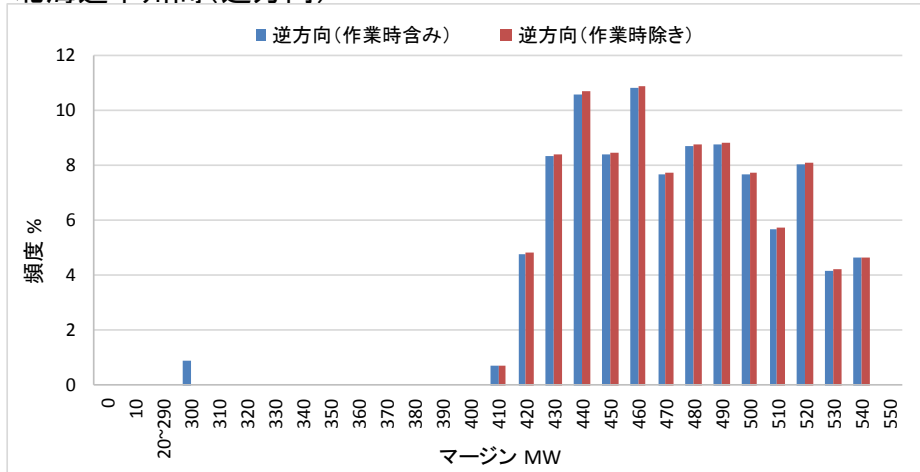
# (参考) 間接オークション導入後 (2018年10月1日~2019年2月10日) の マージン設定実績

## 北海道本州間(順方向)



(参考) 北海道本州間(順方向)の当該期間(10~2月)における年間計画値は132~292MW※1

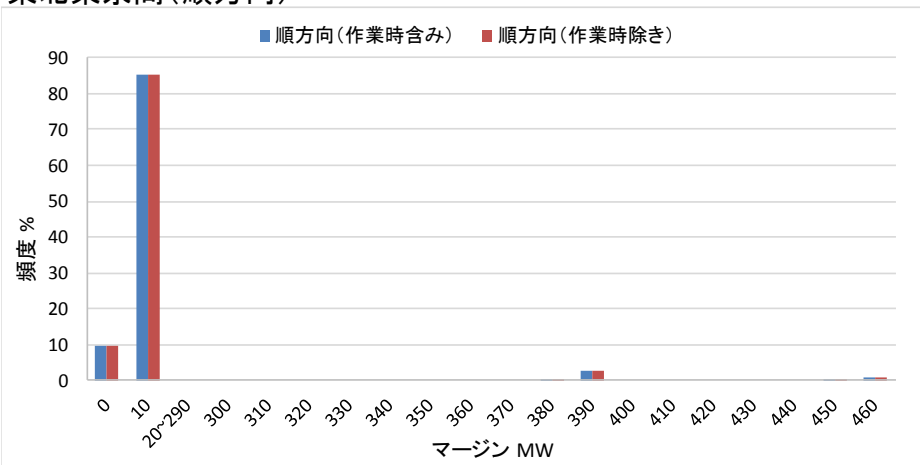
## 北海道本州間(逆方向)



(参考) 北海道本州間(逆方向)の当該期間(10~2月)における年間計画値は462~542MW※1

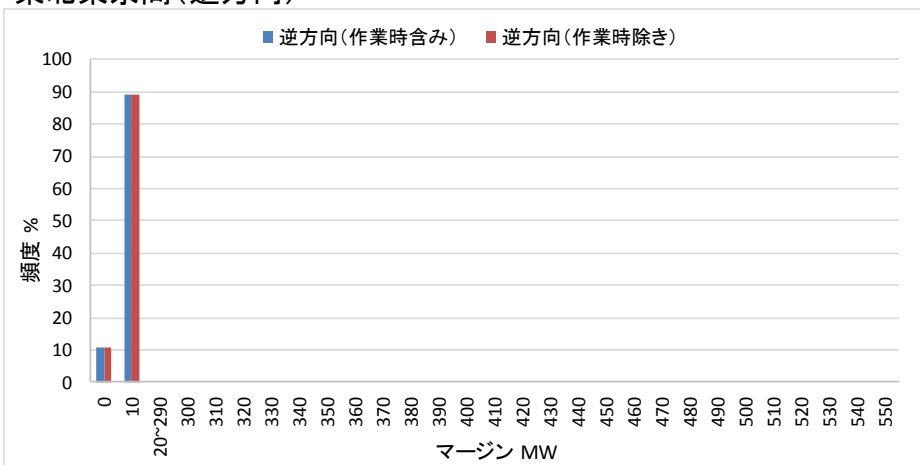
※1 北海道本州間連系設備のマージンは実需給断面では断面細分化に伴い年間計画より小さい値も設定される。

## 東北東京間(順方向)



(参考) 東北東京間(順方向)の当該期間(10~2月)における年間計画値は12~462MW

## 東北東京間(逆方向)

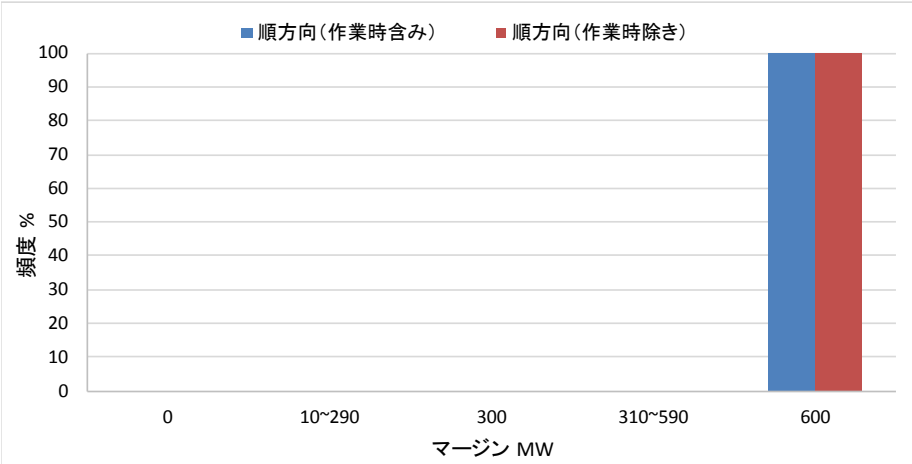


(参考) 東北東京間(逆方向)の当該期間(10~2月)における年間計画値は12MW

※ 年間計画のマージンは常時(作業時除き)の値で記載

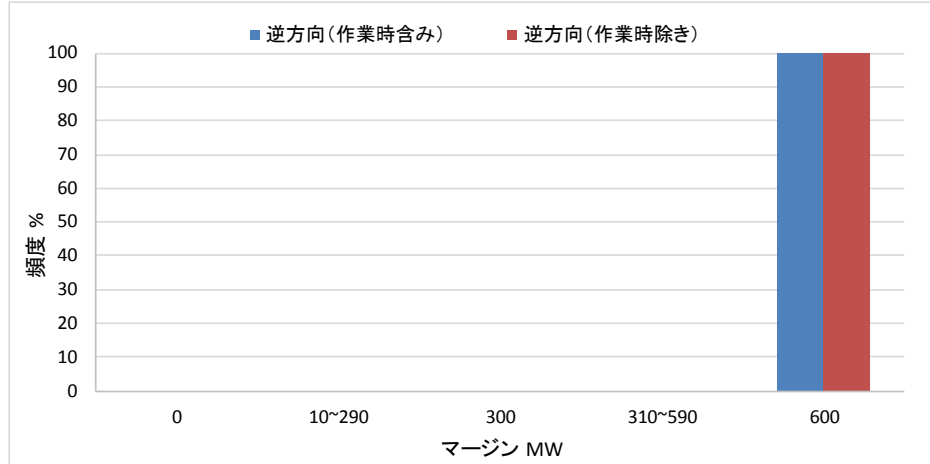
# (参考) 間接オークション導入後 (2018年10月1日~2019年2月10日) の マージン設定実績

## 東京中部間(順方向)



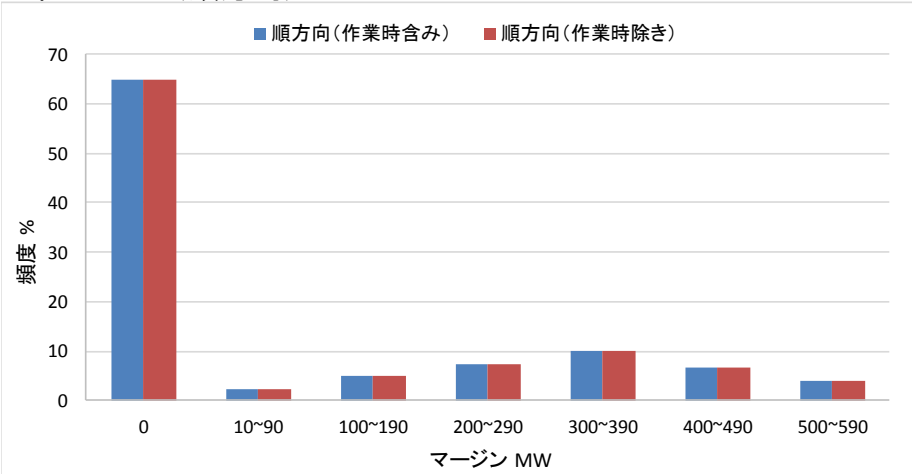
(参考) 東京中部間(順方向)の当該期間(10~2月)における年間計画値は600MW

## 東京中部間(逆方向)



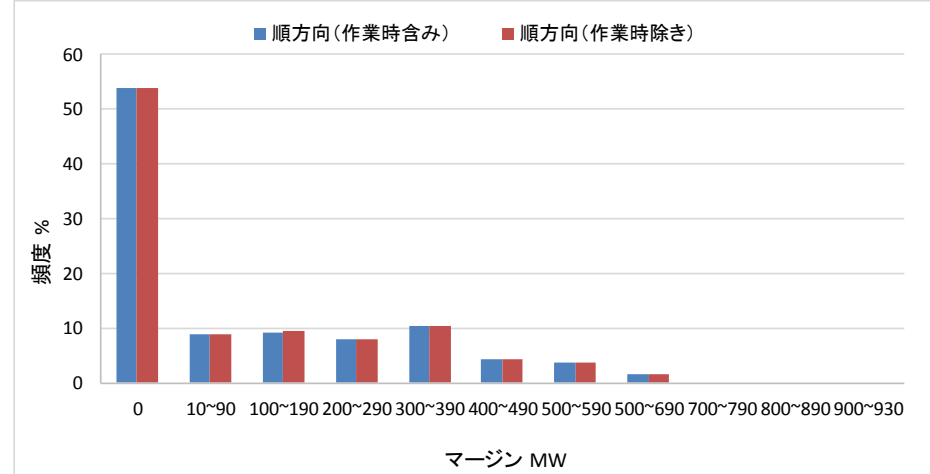
(参考) 東京中部間(逆方向)の当該期間(10~2月)における年間計画値は600MW

## 北陸フェンス(順方向)



(参考) 北陸フェンス(順方向)の当該期間(10~2月)における年間計画値は0~590MW

## 中国四国間(順方向)



(参考) 中国四国間(順方向)の当該期間(10~2月)における年間計画値は0~930MW

※ 年間計画のマージンは常時(作業時除き)の値で記載

翌々日断面でマージンを設定している連系線のスポット市場分断状況について  
確認した結果は以下の通り。

期間: 2018/10~2019/2 (10日まで)

(参考: 間接オークション導入前)  
期間: 2017/10~2018/9

連系線	方向	作業	期間: 2018/10~2019/2 (10日まで)		(参考: 間接オークション導入前) 期間: 2017/10~2018/9	
			スポット分断	内マージン設定時	スポット分断	内マージン設定時
北海道本州間 連系設備	順方向	作業時含み	1 (0.0%)	1 (0.0%)	259 (1.5%)	256 (1.5%)
		作業時除く	1 (0.0%)	1 (0.0%)	256 (1.5%)	256 (1.5%)
	逆方向	作業時含み	6,208 (97.2%)	6,208 (97.2%)	13,715 (78.3%)	13,677 (78.1%)
		作業時除く	6,146 (96.3%)	6,146 (96.3%)	12,605 (71.9%)	12,605 (71.9%)
東北東京間 連系線	順方向	作業時含み	0 (0.0%)	0 (0.0%)	219 (1.3%)	50 (0.3%)
		作業時除く	0 (0.0%)	0 (0.0%)	25 (0.1%)	0 (0.0%)
	逆方向	作業時含み	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
		作業時除く	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
東京中部間 連系設備	順方向	作業時含み	82 (1.3%)	82 (1.3%)	3,483 (19.9%)	3,483 (19.9%)
		作業時除く	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1,913 (10.9%)	1,913 (10.9%)
	逆方向	作業時含み	5,594 (87.6%)	5,594 (87.6%)	7,544 (43.1%)	7,544 (43.1%)
		作業時除く	3,270 (51.2%)	3,270 (51.2%)	5,734 (32.7%)	5,734 (32.7%)
北陸フェンス	順方向	作業時含み	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
		作業時除く	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
中国四国間 連系設備	順方向	作業時含み	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
		作業時除く	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

※ 数値は、30分コマ数で記載 ( )内に各期間に占める割合(%)を示す。

作業は翌々日段階での計画分を抽出した。

東北東京間連系線について、リスクが高まることが予見される場合に潮流抑制のためのマージンを設定しているが、作業時を除けば、マージン設定によるスポット市場への影響は認められない。

## 【予備力・調整力に関連したマージン】

■ 内は当該区分に該当する現状のマージン

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべきリスクへの対応			稀頻度リスクへの対応
	(参考) エリアが確保す る調整力分※1	左記のうち、 エリア外調達分	エリア外 期待分	エリア外 期待分
「需給バランスに対応したマージン」 需給バランスの確保を目的として、連系統を介して他エリアから電気を受給するために設定するマージン	電源 I	A0	A1 旧① 旧②	A2 旧⑤
		(該当なし)	・最大電源ユニット相当 ・系統容量3%相当※2	・系統容量3%相当※3
「周波数制御に対応したマージン」 電力系統の異常時に電力系統の周波数を安定に保つために設定するマージン  ※周波数制御(電源脱落対応を除く)のためにマージンを設定する場合は、「異常時」の表現の見直しが必要。	電源 I - a	B0	B1 旧③	B2 旧③
		・北海道風力実証試験	・東京中部間連系設備 (EPPS:逆方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC:逆方向)	・東京中部間連系設備 (EPPS:順方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC:順方向)

※1: 表中には記載を省略しているが、電源Ⅱの余力も含む。

※2: 従来区分①の系統容量3%相当マージンについては、長期計画断面では区分Dのマージンのほうが大きいため必要性を検討する必要性が無くなっている。一方、現在、前々日時点でエリア予備力不足時にはマージンを確保していることから、ここに記載している。

※3: ESCJの整理において、系統容量3%相当マージンに従来区分⑤(稀頻度リスク対応)に該当する観点が含まれることから記載

## 【連系線潮流抑制による安定維持のためのマージン】

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべき リスクへの対応	稀頻度 リスクへの対応
「連系線潮流抑制のためのマージン」 電力システムの異常時に電力システムを安定に保つことを目的として、当該連系線の潮流を予め抑制するために設定するマージン	C1 旧④ ・北海道本州間連系設備 (潮流抑制)	C2 旧④ ・東北東京間連系線 (潮流抑制)

## 【電力市場取引環境整備のマージン】

マージンの目的 マージンの分類	電力市場取引 環境整備
「電力市場取引環境整備のマージン」 先着優先による連系線利用の登録によって競争上の不公平性が発生することを防止するために設定するマージン	D (該当なし)